

科目名	医療倫理学特論	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	服部健司	単位	2	必修・選択	選択

目的	広義の医療倫理の領域において一義的に正しいとされる答えの定まらない問題を考え抜く力を養う。
学習到達目標	知識の習得や原則の適用の術を磨くのではなく、日常のなかで埋もれている倫理問題に気がつくための問題発見的な感受性を身につけ、さらにその問題を批判的・反省的に考えることができるようになる。
成績評価方法	授業への参加態度および授業後のミニレポート

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	言語化不能なこと	W・アレン 『マンハッタン』	服部健司
2	感性の多様	シュヴァンクマイエル 『庭園／肉片の恋』	服部健司
3	ケース・スタディ（1）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部健司
4	「全人的医療」	医学の目的、「全人的医療」がはらむ問題	服部健司
5	ケース・スタディ（2）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部健司
6	守秘義務	プライバシーと守秘義務	服部健司
7	ケース・スタディ（3）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部健司
8	インフォームドコンセント	インフォームドコンセントのゆらぎ	服部健司
9	ケース・スタディ（4）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部健司
10	患者の意思の自由と自律	パターンリズムと患者の自律	服部健司
11	ケース・スタディ（5）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部健司
12	医療と性	社会、セクシュアリティ、性	服部健司
13	ケース・スタディ（6）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部健司
14	よい死	死の準備教育は必要かー「よい死」はあるか	服部健司
15	ケース・スタディ（7）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議、まとめ	服部健司

教科書	服部健司・伊東隆雄『医療倫理学のABC』メヂカルフレンド社(2004)
参考書	

科目名	医療運営・管理学特論	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	石田昌宏 柴山勝太郎	単位	2	必修・選択	選択

目的	医療制度が看護現場に及ぼす様々な影響を理解した上での、病院運営、看護組織運営を理解できる
学習到達目標	医療制度のおおよそを理解し、その中で病院経営の在り方、看護組織の運営の在り方について、提案できること
成績評価方法	レポート

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	【石田昌宏】 医療保険制度	国民皆保険制度の成り立ちと意義を検討する	石田 昌宏
2	診療報酬制度	診療報酬制度の現場・歴史から見た矛盾を検討する	石田 昌宏
3	同上		
4	同上		
5	医療制度		
6	介護保険制度	介護保険制度の概要を理解し、医療へ及ぼしている影響を検討する	石田 昌宏
7	保健師助産師看護師法	看護職の身分法を中心に検討し、看護職の本来の在り方について検討する	石田 昌宏
8			
9	トピックス	その時の時事課題について検討する	石田 昌宏
1	【柴山勝太郎】 医療における安全管理とリスクマネジメントⅠ	医療安全を確立するための体制の整備（医療安全室の設置）について考察する	柴山 勝太郎
2	医療における安全管理とリスクマネジメントⅡ	医療安全室（リスクマネージャー）の業務について考察する	柴山 勝太郎
3	医療における安全管理とリスクマネジメントⅢ	重大な事故発生時の対応と防止対策について考察する	柴山 勝太郎
4	医療機関の運営と管理の実践と課題Ⅰ	事例検討 具体的事例を対象に考察する（①）	柴山 勝太郎
5	医療機関の運営と管理の実践と課題Ⅱ	事例検討 具体的事例を対象に考察する（②）	柴山 勝太郎
6	医療機関の運営と管理の実践と課題Ⅲ	事例検討 具体的事例を対象に考察する（③）	柴山 勝太郎

教科書	
参考書	

科目名	人体の構造と機能学特論	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	小林 功 近藤 照彦	単位	2	必修・選択	選択

目的	人体の構造、および環境との関係を機能についての知識をより深め、それら知識を看護・リハビリテーション臨床における現象の理解と実践に生かしていく筋道を組み立てる力を養う
学習到達目標	1) 基礎教育で学んだ人体の構造機能の知識を看護・リハビリテーションの実践にどう活かしてきたかを振り返りながら、人体の構造、および環境との関係を機能についてより深い知識を獲得する 2) それら知識を看護・リハビリテーション臨床における現象の理解と実践に生かしていく筋道を組み立てる力が高まる
成績評価方法	出席状況、平常点、課題レポートを以て評価する

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	人体の機能・生理	人体の生理学的機能の特徴	小林 功
2	人体の構造・生理	人体の生理学的機能の特徴	小林 功
3	環境と生体機能	自然環境と生体機能	小林 功
4	消化器疾患	消化器系の病理	小林 功
5	呼吸器疾患	呼吸器疾患の病理	小林 功
6	循環器疾患	心血管障害の病理	小林 功
7	自己免疫疾患	自己免疫の機序	小林 功
8	脳血管障害	脳血管障害の病理	小林 功
9	神経疾患	神経系の病理	小林 功
10	人体機能学の実践Ⅰ	運動と障害の実践	近藤 照彦
11	人体機能学の実践Ⅱ	運動と筋機能の実践	近藤 照彦
12	人体機能学の実践Ⅲ	運動と人体適応の実践	近藤 照彦
13	人体機能学の実践Ⅳ	運動と呼吸循環機能の実践	近藤 照彦
14	人体機能学の実践Ⅴ	運動と代謝の実践	近藤 照彦
15	人体の構造・機能の相関	人体の巧緻性序論	小林 功

教科書	
参考書	肥満・肥満症の指導マニュアル第2版、メタボリックシンドローム実践マニュアル、高齢者運動処方ガイドライン、アダプティッド・スポーツの科学、運動処方の指針、慢性疾患を有する人への運動指導テキスト、ネッター解剖学アトラス

科目名	加齢医学特論	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	小林 功 栗田昌裕 近藤照彦	単位	2	必修・選択	選択

目的	基礎教育における、出生から死亡に至るまでの加齢過程で生じる現象、加齢と生活の蓄積に伴って生じる生活習慣病や知的機能の変化、およびその予防や健康改善の理解・知識をより精緻に発展させる。
学習到達目標	1. 加齢過程で生じる現象の理解、臨床実践を発展させる知識が深まる 2. 生活習慣病とその予防・改善についての理解、臨床実践を発展させる知識が深まる 3. 加齢に伴う知的機能の変化と改善についての理解、臨床実践を発展させる知識が深まる
成績評価方法	出席状況、平常点、課題レポートを以て評価する

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	加齢過程で生じる現象Ⅰ	受精から始まるヒトの一生の発達と加齢過程 老化の機序	小林 功
2	高齢者の疾病	老年病の臨床と高齢者特有の症候	小林 功
3	高齢者の認知機能	高齢者の認知機能の特徴	小林 功
4	生活習慣病学	生活習慣病の概念	小林 功
5	肥満学	内臓脂肪と皮下脂肪、 アディポサイトカイン インスリン抵抗性	小林 功
6	糖尿病学	診断、治療をめぐって	小林 功
7	メタボリックシンドローム	特定健診とその対策	小林 功
8	知的機能の発達と加齢の 伴う変化	知能の生涯発達。流動的知能と結晶知能の違い。 記憶の仕組み。エピソード記憶と意味記憶。記憶の加齢 変化。人格と創造性の加齢変化	栗田 昌裕
9	知的機能の健康度の維持 改善Ⅰ	知的機能と情報処理機能の対応。知的機能と認知能力及 び運動機能との相関。認知機能訓練および運動機能訓練 による知的機能改善法とその効果	栗田 昌裕
10	知的機能の健康度の維持 改善Ⅱ	知的機能と自律機能及び感情の働きとの相関。自律機能 を活用した知的機能改善法と成果。感情情緒の制御による 知的機能改善法	栗田 昌裕
11	知的機能の健康度の維持 改善Ⅲ	知的機能と生活姿勢との相関。環境と習慣を活用した知的 機能改善法。記憶力と創造性の維持法	栗田 昌裕
12	肥満と健康の運動生理学	肥満症者の運動とその効果	近藤 照彦
13	加齢と健康の運動生理学	高齢者の運動とその効果	近藤 照彦
14	障害をもつ人の運動と健康	障害者の運動とその効果	近藤 照彦
15	加齢における健康と疾病 について	加齢による健康障害に対する対処	小林 功

教科書	
参考書	肥満・肥満症の指導マニュアル第2版、メタボリックシンドローム実践マニュアル、高齢者運動処方ガイドライン、 アダプティッド・スポーツの科学、運動処方の指針、慢性疾患を有する人への運動指導テキスト

科目名	保健医療統計学特論	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	藁輪眞澄	単位	2	必修・選択	選択

目的	保健医療の研究に必要な統計の基礎を理解する。
学習到達目標	保健医療の研究に必要な統計の基礎を理解し、簡単な研究計画を作成することができる。
成績評価方法	自分で考えた仮説を立証するための研究計画を作成して、レポートとする。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	統計とは何か。そして、結果をどう図示するか	まずい統計の例を示して、統計では何を示さなければならないかを明らかにする。最後に提出すべきレポートの概要を示す。	藁輪眞澄
2	傷病量の表し方	率、割合および比の違いを明らかにし、罹患率と有病率の違いを理解させる。	藁輪眞澄
3	交絡の概念と標準化 (1)	交絡の概念を明らかにし、間接法による年齢調整を行う。Excel の実習を含む。	藁輪眞澄
4	交絡の概念と標準化 (2)	直接法による年齢調整を行う。Excel の実習を含む。	藁輪眞澄
5	統計的データの種類および統計調査の計画と実施	統計におけるデータの種類の質的・量的特性を占めると同時に、統計調査の計画（目的の明確化）と実施の概要を示す。	藁輪眞澄
6	調査票の作成、実査および事例調査の意義	実際に答えやすい調査票をすると同時に、それを実際に使用した時にどのようなことが起こるかを考える。事例調査との関係にも言及する。	藁輪眞澄
7	代表値とその算出	平均値と中央値の概念を示し、平均値と標準偏差を求める。Excel の実習を含む。	藁輪眞澄
8	2 つの変数の関連性の解析	2 変量の相関係数および関連性の解析を学ぶ。Excel の実習を含む。	藁輪眞澄
9	仮説定とは何か	検定とは何かを示し、分割表の検定、数量データの検定および順序データの検定を学習する。	藁輪眞澄
10	疫学とは何か	疫学とは何かを、疫学の歴史を含めて解説し、記述疫学の概要を述べる。	藁輪眞澄
11	分析疫学	コホート研究と症例対照研究の概要と研究の事例を述べる。	藁輪眞澄
12	介入研究およびリスクとその評価 (附: EBM)	疫学的実験である介入研究の考え方を述べ、寄与危険度と相対危険との違いおよびそれら意義に言及する。	藁輪眞澄
13	量反応関係とスクリーニング	整合性のある関連とはどういうものかを考え、スクリーニングによる第2次予防の考えかたを考える。	藁輪眞澄
14	因果関係論および疾病対策と評価	観察された関連性が因果関係に基づくものではないという証拠を示すにはどうしたらいいか。疾病対策全体に占める位置付けはどうか。	藁輪眞澄
15	まとめと研究計画の書き方	全体をまとめながら、学生に提出させる研究計画書の書き方を考える。	藁輪眞澄

教科書	福富和夫, 橋本修二. 保健統計・疫学. 南山堂.
参考書	国民衛生の動向, 2009 年版

科目名	家族社会学特論	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	内藤和美	単位	2	必修・選択	選択

目的	基礎教育で習得した家族に関する基本的知識をもとに、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識、とくに個人・家族と社会通念・社会慣習の相互関係に関する見識を深め、患者・対象者だけでなく家族を視野に入れた適切な保健医療サービスを提供し得る力を養う
学習到達目標	1) 個人・家族と社会通念・社会慣習の相互関係、という視点を獲得し、その視点から現象を考察できるようになる 2) 個人・家族を社会資源とつなぎ・駆使・調整することによって、問題解決や QOL の向上をはかる力が高まる
成績評価方法	出席状況、平常点、課題レポートを以て評価する

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	個人と家族	近代家族 近代家族の特徴 日本における近代家族	内藤 和美
2	家族機能	国際家族年の家族の理念、個人と家族の相互関係 家族の発達と個人のライフコース	内藤 和美
3	個人・家族と社会通念・社会慣習Ⅰ	家族と世帯、世帯の動向、家族周期、近代家族が担ってきた基本機能=生活保障（家事労働、就労による家族の経済基盤の確保 感情機能）	内藤 和美
4	個人・家族と社会通念・社会慣習Ⅱ	日本の近代家族をめぐる社会規範-価値、通念	内藤 和美
5	個人・家族と社会通念・社会慣習Ⅲ	日本の近代家族をめぐる慣習-生活保障機能と性別分業①	内藤 和美
6	個人・家族と社会通念・社会慣習Ⅳ	日本の近代家族をめぐる慣習-生活保障機能と性別分業②	内藤 和美
7	個人・家族とワークライフ・バランス	日本の近代家族をめぐる慣習-感情機能と性別分③	内藤 和美
8	家族機能の破綻とその解決援助（1）	ワークライフバランス 性別分業からワークライフバランスへ	内藤 和美
9	家族機能の破綻とその解決援助（1）	児童虐待とはどういう問題か 調査結果から 児童虐待とドメスティックバイオレンス	内藤 和美
10	家族機能の破綻とその解決援助（2）	児童虐待への対応-予防、発見、危機介入（初期対応）、問題解決のための長期的対応	内藤 和美
11	家族機能の破綻とその解決援助（3）	児童虐待への対応の鍵概念-自己肯定感情、ネットワーク、児童虐待防止法	内藤 和美
12	家族機能の破綻とその解決援助（4）	ドメスティック・バイオレンス 総合的対策の必要	内藤 和美
13	家族機能の破綻とその解決援助（5）	総合的対策の構成要素となる個別策 配偶者暴力防止法 加害者対策	内藤 和美
14	個人・家族と社会資源	高齢者虐待	内藤 和美
15	まとめ	家族をめぐる地域の社会資源 社会資源の調整活用	内藤 和美

教科書	使用しない（プリントによる）
参考書	目黒依子：家族社会学のパラダイム、勁草書房、2007 宮地尚子：医療現場における DV 被害者への対応ハンドブック 医師および医療関係者のために、明石書店、2008 津崎哲郎他：最前線レポート児童虐待はいま 連携システムの構築に向けて、ミネルヴァ書房、2008

科目名	教育学	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	横井利男	単位	2	必修・選択	選択

目的	1) 保健医療福祉分野における臨床実践の質を高めるために必要な人材の教育について概説する。 2) 実践的教育の原理と方法について、言及する。 3) 保健医療福祉分野における教育の特色、今後の教育のあり方についても考察する。
学習到達目標	1) 教育の目的、制度体系、教育課程、方法、評価等教育の原理的事項を理解する 2) 思春期後期から成人の学習者を対象に行われる専門職教育の特徴を理解する 3) 保健医療福祉分野の専門職教育で用いられる、教育方法の基本を習得する、
成績評価方法	出席状況、平常点、課題レポートを以て評価する

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	教育原理 1	教育の目的・理念 教育思想	横井利男
2	教育原理 2	教育：「教」と「育」	横井利男
3	教育原理 3	学習：「知る」と「わかる」	横井利男
4	教育原理 4	発達と教育・教育制度	横井利男
5	成人の教育 1	アンドラゴジー	横井利男
6	成人の教育 2	高等教育・専門教育	横井利男
7	教育課程	教育課程編成の考え方・教育課程の編成	横井利男
8	教授・学習過程 1	学習内容と学習形態	横井利男
9	教授・学習過程 2	学習・研究活動に対する支援と指導のあり方	横井利男
10	教授・学習過程 3	教授活動（授業展開）の構想	横井利男
11	教育の評価	教育目標と評価 測定と評価 試験	横井利男
12	教育の評価	相対評価 絶対評価 形成的評価 自己評価	横井利男
13	保健医療専門職の教育 1	保健医療専門職養成の特徴 基礎教育・継続教育	横井利男
14	保健医療専門職の教育 2	保健医療実践のなかでの教育	横井利男
15	まとめ		横井利男

教科書	使用しない（プリントによる）
参考書	授業の中で随時紹介する

科目名	応用英語	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	杉田雅子	単位	1	必修・選択	選択

目的	研究に必要な情報・知識を得るための英文読解力と、各自の研究成果を英語で表現する力の養成。音声面では正しい発音・アクセントで英文が読める力の養成。
学習到達目標	1) 基礎的英文法を確認しながら構文を分析し、英語文献を正しく読み取る力が高まる 2) 読み取った内容から論旨を把握し、要約する力が高まる 3) 読んだ英語文献や各自の論文の abstract を英語で書くことができる。 4) 運用できる専門用語が増える 5) 英文を正しい発音、アクセントで読む力が高まる
成績評価方法	課題、授業での発表、出席状況を以て評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	医療・健康に関する英文を読む①	Osteoporosis についての文献を読む。	杉田 雅子
2	医療・健康に関する英文を読む②	Rehabilitation についての文献を読む。	杉田 雅子
3	医療・健康に関する英文を読む③	Stress についての文献を読む。	杉田 雅子
4	医療・健康に関する英文を読む④	Risk Management についての文献を読む。	杉田 雅子
5	医療・健康に関する英文を読む⑤	Ethical Issues についての文献を読む。	杉田 雅子
6	医療・健康に関する英文を読む⑥	Changes in Sleep Patterns in COPD についての文献を読む。	杉田 雅子
7	医療・健康に関する英文を読む⑦	A Battered-Child Syndrome についての文献を読む。	杉田 雅子
8	医療・健康に関する英文を読む⑧	Confusion についての文献を読む。	杉田 雅子
9	医療・健康に関する英文を読む⑨	Communicating with Infants についての文献を読む。	杉田 雅子
10	医療・健康に関する英文を読む⑩	The Unique Function of Nursing についての文献を読む。	杉田 雅子
11	Abstract の読み方、書き方①	実際の論文の abstract を読み、書き方を説明する。	杉田 雅子
12	Abstract の読み方、書き方②	各自の研究論文の abstract を書いてみる。	杉田 雅子
13	研究論文を読む①	A Full Research Article を読む。	杉田 雅子
14	研究論文を読む②	A Full Research Article を読む。	杉田 雅子
15	研究論文を読む③	A Full Research Article を読む。	杉田 雅子

教科書	使用しない（プリントによる）
参考書	英和辞典、英々辞典、 飯田恭子：カタカナでわかる医療英単語、医学書院、2005。 飯田恭子、平井美津子：アタマとオシリでわかる医療英単語、医学書院、2006



科目名	保健学特別セミナー	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	伊藤まゆみ 牛込三和子 大野絢子 齋藤和子 城生弘美 鈴木珠水、高橋正明 松澤正	単位	2	必修・選択	必修

目的	保健学各領域の最新の研究動向と争点や課題を知り、それらの知識・情報を各自の研究のテーマや視点や分析概念や方法の具体的検討に役立てる。
学習到達目標	保健学各領域の最新の研究動向と争点や課題を知り、それらを活用して、各自の研究のテーマや視点や分析概念や方法の具体的検討が進む
成績評価方法	出席状況、平常点、課題レポートにて評価する

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	基礎保健学Ⅰ	基礎看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	城生 弘美
2	基礎保健学Ⅱ	第1回の講義を踏まえた討論、演習を行なう	城生 弘美
3	基礎保健学Ⅲ	基礎理学療法学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	高橋 正明
4	基礎保健学Ⅳ	第3回の講義を踏まえた討論、演習を行なう	高橋 正明
5	看護教育学	看護教育学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	大野 絢子
6	成人保健学Ⅰ	成人看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	鈴木 珠水
7	成人保健学Ⅱ	成人看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	牛込 三和子
8	成人保健学Ⅲ	第7回の講義を踏まえた討論、演習を行なう	牛込 三和子
9	成人保健学Ⅳ	臨床理学療法学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	松澤 正
10	成人保健学Ⅴ	第9回の講義を踏まえた討論、演習を行なう	松澤 正
11	老年保健学Ⅰ	老年看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	伊藤 まゆみ
12	老年保健学Ⅱ	第11回の講義を踏まえた討論、演習を行なう	伊藤 まゆみ
13	精神保健学	精神看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	齋藤 和子
14	地域保健学Ⅰ	地域看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	大野 絢子
15	地域保健学Ⅱ	第14回の講義を踏まえた討論、演習を行なう	大野 絢子

教科書	使用しない
参考書	山手茂：園田恭一：保健・医療・福祉の研究・教育・実践. 東信堂、2007 イアン・K. クロンビー：津富宏医療専門職のための研究論文の読み方：批判的吟味がわかるポケットガイド. 金剛出版、2007

科目名	基礎看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	城生弘美 真砂涼子	単位	2	必修・選択	選択

目的	看護独自の援助法（看護技術）に関する研究の動向や課題について理解する。さらに、看護援助の効果について総合的に分析・評価するための最新の知見と新たな介入法の開発の課題について理解する。
学習到達目標	1) 人間・環境・健康・看護を探究する看護学の研究の動向や課題について理解する。 2) 看護実践の効果を科学的に検証し、新しい看護介入方法の開発につながる研究方法並びに人間関係を基盤とする看護現象の分析に関する研究方法を学ぶ。
成績評価方法	出席及びレポート

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	オリエンテーション	オリエンテーション	城生 弘美
2	基礎看護学領域の動向と課題Ⅰ	看護学の視点における生活環境刺激と生体反応	城生 弘美
3	基礎看護学領域の動向と課題Ⅱ	看護技術開発と看護技術研究の動向	城生 弘美
4	基礎看護学領域の動向と課題Ⅲ	基礎看護学に関連する国内外の研究について	城生 弘美
5	感覚機能に働きかける看護実践の研究の動向Ⅰ	感覚機能による情動反応を促す看護療法の技術開発と研究の動向（1）	真砂 涼子
6	感覚機能に働きかける看護実践の研究の動向Ⅱ	感覚機能による情動反応を促す看護療法の技術開発と研究の動向（2）	真砂 涼子
7	感覚機能に働きかける看護実践の研究の動向Ⅲ	感覚機能による情動反応を促す看護療法の技術開発と研究の動向（3）	真砂 涼子
8	感覚機能に働きかける看護実践の研究の動向Ⅳ	感覚機能による情動反応を促す看護療法の技術開発と研究の動向（4）	真砂 涼子
9	基礎看護学領域の研究動向Ⅰ	基礎看護学に関連する国内外文献購読の実際（1）	城生弘美・真砂 涼子
10	基礎看護学領域の研究動向Ⅱ	基礎看護学に関連する国内外文献購読の実際（2）	城生弘美・真砂 涼子
11	基礎看護学領域の研究動向Ⅲ	基礎看護学に関連する国内外文献購読の実際（3）	城生弘美・真砂 涼子
12	基礎看護学領域の研究動向Ⅳ	基礎看護学に関連する国内外文献購読の実際（4）	城生弘美・真砂 涼子
13	基礎看護学領域の研究動向Ⅴ	基礎看護学に関連する国内外文献購読の実際（5）	城生弘美・真砂 涼子
14	基礎看護学領域の研究動向Ⅵ	基礎看護学に関連する国内外文献購読の実際（6）	城生弘美・真砂 涼子
15	看護学の体系化における基礎看護学の課題	看護学の体系化における基礎看護学の課題	城生弘美・真砂 涼子

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	基礎看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	城生弘美 真砂涼子	単位	2	必修・選択	選択

目的	基礎看護学特論で理解した看護援助の効果について課題別に文献考査し、先行研究の批判的考察を行い、今後の課題について演習する。
学習到達目標	研究課題を見出し、文献レビューを通して、研究課題に適した研究手法の選択や研究の進め方を实际的に理解し、個別の具体的な課題に関する研究計画書を作成する。
成績評価方法	各自の設定した課題に基づいて立案した研究計画書及び出席状況。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	研究課題の検討Ⅰ	オリエンテーション、看護学領域と学際領域の研究課題	城生 弘美
2	研究課題の検討Ⅱ	研究テーマの探索	城生 弘美
3	研究課題の検討Ⅲ	文献検索と整理、研究論文のクリティークの方法	城生 弘美
4	研究課題の検討Ⅳ	研究課題と研究方法（1）	城生 弘美
5	研究課題の検討Ⅴ	研究課題と研究方法（2）	城生 弘美
6	研究課題の検討Ⅵ	研究における倫理面の検討	城生 弘美
7	研究課題の検討Ⅶ	研究課題に関連する文献レビュー（1）	真砂 涼子
8	研究課題の検討Ⅷ	研究課題に関連する文献レビュー（2）	真砂 涼子
9	研究課題の検討Ⅸ	研究課題に関連する文献レビュー（3）	真砂 涼子
10	研究計画立案Ⅰ	研究論文の作成と研究成果の公表	真砂 涼子
11	研究計画立案Ⅱ	研究計画（1）	真砂 涼子
12	研究計画立案Ⅲ	研究計画（2）	真砂 涼子
13	研究計画立案Ⅳ	研究計画（3）	真砂 涼子
14	研究計画立案Ⅴ	研究計画（4）	城生 弘美
15	研究計画立案Ⅵ	研究計画（5）	城生 弘美

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	基礎理学療法学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	高橋 正明 江口 勝彦	単位	2	必修・選択	選択

目的	理学療法学の基礎となる身体の姿勢・動作・呼吸・循環とその解析手法、および、理学療法の対象となる各疾患によって生じる姿勢・動作・呼吸・循環の異常とその解析手法とそれらの研究方法について教授する。また、装具着用による身体運動への影響、および、呼吸・循環の反応について教授する。さらに、大学内における理学療法教育、臨床実習、および、理学療法士資格取得後の教育方法とその研究方法について教授する。
学習到達目標	1) 身体の姿勢・動作・呼吸・循環の解析方法がわかる。 2) 理学療法の実践において、それらの解析が実施できる。
成績評価方法	授業への参加状況・報告による。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	姿勢と動作Ⅰ	関節機能（１）	高橋 正明
2	姿勢と動作Ⅱ	関節機能（２）	高橋 正明
3	姿勢と動作Ⅲ	関節機能の解析および評価方法	高橋 正明
4	姿勢と動作Ⅳ	バランス保持戦略（１）	高橋 正明
5	姿勢と動作Ⅴ	バランス保持戦略（２）	高橋 正明
6	姿勢と動作Ⅵ	バランス保持戦略の解析および評価方法	高橋 正明
7	姿勢と動作Ⅶ	姿勢・動作の異常	高橋 正明
8	呼吸と循環Ⅰ	呼吸と循環	江口 勝彦
9	呼吸と循環Ⅱ	運動負荷時の呼吸と循環の反応	江口 勝彦
10	呼吸と循環Ⅲ	呼吸と循環の異常	江口 勝彦
11	呼吸と循環Ⅳ	呼吸と循環の解析および評価方法	江口 勝彦
12	装具と身体	装具による身体運動・呼吸・循環への影響	江口 勝彦
13	理学療法教育Ⅰ	大学内教育	高橋 正明
14	理学療法教育Ⅱ	臨床実習	高橋 正明
15	理学療法教育Ⅲ	臨床教育	高橋 正明

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	基礎理学療法学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	高橋正明 江口勝彦	単位	2	必修・選択	選択

目的	身体の動作、特に関節運動とバランス戦略に関する内外の先行研究を考証する。また、理学療法の対象となる疾患の病態と姿勢・動作との関連について考証し、さらに、最新の知見について検証・演習し理学療法技術の確立に寄与する。また、呼吸と循環の解析・評価方法や、呼吸器、循環器疾患の病態とそれに起因する機能・能力障害とその解析・評価手法に関する内外の先行研究を広く考証し、最近知見について検証・演習をおこなう。また、装具着用による身体運動・呼吸・循環の応答とその解析・評価に関する先行研究を広く考証する。
学習到達目標	1) 身体の姿勢・動作・呼吸・循環に関する現在の研究動向・トピックスがわかる。 2) それらを理学療法の実践現場で応用できる。
成績評価方法	授業への参加状況・報告による。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	姿勢と動作Ⅰ	関節運動に関する研究(1)	高橋正明
2	姿勢と動作Ⅱ	関節運動に関する研究(2)	高橋正明
3	姿勢と動作Ⅲ	関節運動に関する研究(3)	高橋正明
4	姿勢と動作Ⅳ	バランス戦略に関する研究(1)	高橋正明
5	姿勢と動作Ⅴ	バランス戦略に関する研究(2)	高橋正明
6	姿勢と動作Ⅵ	バランス戦略に関する研究(3)	高橋正明
7	病態と身体の運動Ⅰ	病態と姿勢・動作に関する研究(1)	高橋正明
8	病態と身体の運動Ⅱ	病態と姿勢・動作に関する研究(2)	高橋正明
9	病態と身体の運動Ⅲ	病態と姿勢・動作に関する研究(3)	高橋正明
10	呼吸と循環Ⅰ	呼吸・循環器疾患に起因する機能障害に関する研究(1)	江口勝彦
11	呼吸と循環Ⅱ	呼吸・循環器疾患に起因する機能障害に関する研究(2)	江口勝彦
12	呼吸と循環Ⅲ	呼吸・循環機能の解析と評価方法に関する研究(1)	江口勝彦
13	呼吸と循環Ⅳ	呼吸・循環機能の解析と評価方法に関する研究(2)	江口勝彦
14	装具と身体Ⅰ	装具着用による身体運動・呼吸・循環の応答に関する研究(1)	江口勝彦
15	装具と身体Ⅱ	装具着用による身体運動・呼吸・循環の応答に関する研究(2)	江口勝彦

教科書	指定せず(必要に応じて資料を配布する)
参考書	授業の中で紹介する

科目名	成人看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	牛込三和子 鈴木珠水 北林司 萩原英子	単位	2	必修・選択	選択

目的	成人看護学の対象となる主な疾病の保健と医療の動向および医療対策、専門的看護実践の基礎となる、対象理解、アセスメント、看護技術、支援システム、家族支援について理解し、今日的課題をみいだす。また、成人看護学基礎教育のカリキュラムと臨地実習について現状と課題について理解を深める。
学習到達目標	1) 生活習慣病、がん、難病の保健と医療の動向を理解する。 2) 成人看護の動向を理解する。 3) 成人看護学基礎教育のカリキュラム、臨地実習について現状と課題を理解する。
成績評価方法	講義への出席状況、課題についてのプレゼンテーションと討議、レポートを総合的に評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	はじめに	成人看護学特論の展開について	牛込 三和子 鈴木珠水
2	保健と医療の動向 1	生活習慣病	鈴木珠水
3	保健と医療の動向 2	がん対策	鈴木珠水
4	保健と医療の動向 3	難病・その他	牛込 三和子
5	医療対策の動向	医療提供体制、在宅医療、訪問看護など	牛込 三和子
6	成人看護の動向 1	生活習慣病（慢性病）	鈴木珠水
7	成人看護の動向 2	難病	牛込 三和子
8	成人看護の動向 3	がん 1 病気と看護支援	鈴木珠水、萩原英子
9	成人看護の動向 4	がん 2 乳がんを例に	鈴木珠水、萩原英子
10	成人看護の動向 5	周手術期看護	牛込 三和子、北林司
11	成人看護の動向 6	救急看護	牛込 三和子、北林司
12	成人看護の動向 7	リハビリテーション看護	鈴木珠水
13	成人看護の動向 8	施設、在宅におけるリスクマネジメント	鈴木珠水
14	成人看護学基礎教育の現状と課題 1	カリキュラム	牛込 三和子、北林司
15	成人看護学基礎教育の現状と課題 2	臨地実習	鈴木珠水、萩原英子

教科書	1 国民衛生の動向 2008 年版。その他必要に応じて提示する。
参考書	適宜紹介する

科目名	成人看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	牛込三和子 鈴木珠子 北林司 萩原英子	単位	2	必修・選択	選択

目的	がん、慢性病、難病等を持つ患者、急性期治療を要する患者等に対する最新の看護知見、社会支援システム、成人看護学教育のありかたについて、国内外の文献抄読、各自の実践報告などを通して、実践・研究の現状を学び、各自の研究計画を作成する。
学習到達目標	1) 文献抄読を通して成人看護学領域における研究の最新の知見を学ぶ。 2) 自己の研究課題を明確にし、研究計画書を作成できる。
成績評価方法	出席状況、文献抄読、研究計画発表のプレゼンテーションと討議への参加、レポート、研究計画書の作成過程を総合的に評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	研究過程 1	研究計画立案から論文作成まで 1	牛込、鈴木、萩原
2	研究過程 2	研究計画立案から論文作成まで 2	牛込、鈴木、萩原
3	研究課題に関連した文献抄読 1	各自の研究計画に関連した文献について、討論する。	鈴木 萩原
4	研究課題に関連した文献抄読 2	各自の研究計画に関連した文献について、討論する。	鈴木 萩原
5	研究課題に関連した文献抄読 3	各自の研究計画に関連した文献について、討論する。	牛込 北林
6	研究課題に関連した文献抄読 4	各自の研究計画に関連した文献について、討論する。	牛込 北林
7	研究課題に関連した文献抄読 5	各自の研究計画に関連した文献について、討論する。	牛込 鈴木
8	文研究課題に関連した文献抄読 6	各自の研究計画に関連した文献について、討論する。	牛込 鈴木
9	研究計画の検討 1	各自の研究計画について検討する	牛込、鈴木
10	研究計画の検討 2	各自の研究計画について検討する	牛込、鈴木
11	研究計画の検討 3	各自の研究計画について検討する	牛込、鈴木
12	研究計画の検討 4	各自の研究計画について検討する	牛込 鈴木 萩原
13	研究計画の検討 5	各自の研究計画について検討する	牛込 鈴木
14	研究計画の検討 6	各自の研究計画について検討する	牛込 鈴木 北林
15	研究計画の発表	各自の研究計画を発表する	牛込 鈴木 北林 萩原

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配付する）
参考書	適宜紹介する

科目名	母子看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	早川有子 木内妙子	単位	2	必修・選択	選択

目的	女性のライフステージ各期における健康問題と看護、小児各期の健康問題と看護について学ぶとともに、女性や子ども、家族をめぐる最新の知識と今日的課題を学ぶ。また、母子看護学の教育方法と研究指導方法について理解を深める。
学習到達目標	1. 母子保健、女性のライフステージ各期における健康問題の現状分析と看護支援のあり方、ならびに今日的課題を理解する。 2. 子どもと家族に対する健康段階に応じた成長発達支援、健康支援のあり方を理解する。
成績評価方法	講義への出席状況、分担課題に付いてのプレゼンテーションと討議、レポートを総合的に評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	母子に関する健康問題Ⅰ	ガイダンス 母子に関する今日的な課題1（国内）	早川 有子
2	母子に関する健康問題Ⅱ	母子に関する今日的な課題2（国外）	早川 有子
3	母子に関する健康問題Ⅲ	母子に関する今日的な課題発表・討議	早川 有子
4	母子に関する健康問題Ⅳ	生殖医療、ドメスティックバイオレンスの現状と課題	早川 有子
5	周産期の看護Ⅰ	母子の感染症と予防接種	早川 有子
6	周産期の看護Ⅱ	母乳育児の実態と課題（夫・家族・育児環境含む）	早川 有子
7	母性看護と法	母子に関わる法制度と課題	早川 有子
8	子どもをめぐる倫理的課題	子どものとらえかた，子どもと人権， 子どもの最善の利益とは何か	木内 妙子
9	子どもと家族の健全な発育と看護Ⅰ	子どもの発育と発達理論Ⅰ	木内 妙子
10	子どもと家族の健全な発育と看護Ⅱ	子どもの発育と発達理論Ⅱ	木内 妙子
11	子どもと家族の健全な発育と看護Ⅲ	子どものヘルスアセスメント	木内 妙子
12	子どもと家族をめぐる健康問題Ⅰ	地域における育児支援と小児看護	木内 妙子
13	子どもと家族をめぐる健康問題Ⅱ	健康問題を抱える子どもと家族の現状Ⅰ	木内 妙子
14	子どもと家族をめぐる健康問題Ⅲ	健康問題を抱える子どもと家族の現状Ⅱ	木内 妙子
15	まとめ		早川 有子

教科書	指定せず
参考書	適宜紹介する



科目名	臨床理学療法学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	松澤正 岡崎大資	単位	2	必修・選択	選択

目的	物理療法に含まれる各種治療法についての物理学的・理学的基礎ならびにそれらの臨床応用に関して教授する。また、物理療法機器の環境に与える影響とその計測・評価手法について、さらに、機器使用時のリスク管理について教授する。さらに、物理療法の一時的な身体への作用の探求にとどまらず、生活の質を向上させるリハビリテーションに寄与するための治療手法について、保健医療福祉の各分野にわたる物理療法の適用について教授する。
学習到達目標	1) 物理療法の身体および環境への影響と、その計測・評価方法がわかる。 2) 現在の物理療法の応用範囲・効果についてわかる。
成績評価方法	授業への参加状況・報告による。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	物理療法の基礎 I	物理療法の物理的・理学的基礎 (1)	松澤 正
2	物理療法の基礎 II	物理療法の物理的・理学的基礎 (2)	松澤 正
3	物理療法と身体 I	物理療法の身体への作用 (1)	松澤 正
4	物理療法と身体 II	物理療法の身体への作用 (2)	松澤 正
5	物理療法と身体 III	物理療法による身体への影響に関する研究方法	松澤 正
6	物理療法の応用 I	物理療法の臨床応用 (1)	松澤 正
7	物理療法の応用 II	物理療法の臨床応用 (2)	松澤 正
8	生活の質 I	理学療法と生活の質 (1)	松澤 正
9	生活の質 II	理学療法と生活の質 (2)	松澤 正
10	物理療法の応用 I	物理療法の応用・適用 (1)	岡崎 大資
11	物理療法の応用 II	物理療法の応用・適用 (2)	岡崎 大資
12	物理療法機器 I	物理療法機器と環境 (1)	岡崎大資
13	物理療法機器 II	物理療法機器と環境 (2)	岡崎 大資
14	物理療法機器 III	物理療法の環境への影響に関する研究方法	岡崎 大資
15	物理療法機器 IV	物理療法とリスク管理	岡崎 大資

教科書	指定せず (必要に応じて資料を配布する)
参考書	授業の中で紹介する

科目名	臨床理学療法学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	松澤正 岡崎大資	単位	2	必修・選択	選択

目的	物理療法に含まれる各種治療法についての物理学的・理学的基礎、ならびに、それらの臨床応用に関して考証をおこなう。特に、生活の質を向上させるリハビリテーションに寄与するための治療手法や、保健医療福祉の各分野にわたる物理療法の適用に関して考証をおこない、さらに、これらに係わる最新の知見を検証・演習する。また、物理療法機器が身体や環境に与える影響とその計測・評価手法について考証し、機器使用時のリスク管理についても検討する。
学習到達目標	現在の物理療法機器、その応用範囲、それらの研究動向についてわかり、理学療法の実践で応用できる。
成績評価方法	授業への参加状況・報告による。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	物理療法の基礎 I	物理療法の基礎研究 (1)	松澤 正
2	物理療法の基礎 II	物理療法の基礎研究 (2)	松澤 正
3	物理療法と身体 I	物理療法と身体に関する研究 (1)	松澤 正
4	物理療法と身体 II	物理療法と身体に関する研究 (2)	松澤 正
5	物理療法の応用 I	物理療法の臨床応用に関する研究 (1)	松澤 正
6	物理療法の応用 II	物理療法の臨床応用に関する研究 (2)	松澤 正
7	生活の質の向上 I	理学療法と生活の質に関する研究 (1)	岡崎 大資
8	生活の質の向上 II	理学療法と生活の質に関する研究 (2)	岡崎 大資
9	物理療法機器 I	物理療法機器と環境に関する研究 (1)	岡崎 大資
10	物理療法機器 II	物理療法機器と環境に関する研究 (2)	岡崎 大資
11	物理療法機器 III	物理療法のリスク管理に関する研究 (1)	岡崎 大資
12	物理療法機器 IV	物理療法のリスク管理に関する研究 (2)	岡崎 大資
13	近年の物理療法 I	物理療法の動向 (1)	岡崎 大資
14	近年の物理療法 II	物理療法の動向 (2)	岡崎 大資
15	物理療法と保健	保健領域における物理療法	岡崎 大資

教科書	指定せず (必要に応じて資料を配布する)
参考書	授業の中で紹介する

科目名	老年看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	伊藤まゆみ	単位	2	必修・選択	選択

目的	老年看護の実践の基礎となる、対象理解、支援・評価方法の理論と技術、高齢者医療を取り巻く制度、政策、及び今日的課題を学ぶ。さらに老年看護学の教育方法と研究指導方法についての理解を深める。
学習到達目標	1) 高齢者の加齢に伴う変化と、からだ・こころの健康問題について理解する。 2) 高齢者看護の最新の知識とエビデンスに基づいた看護支援方法について理解する。 3) 老年看護学の教育方法、研究指導方法に関する理解を深め、自己の課題を見いだす。
成績評価方法	講義への出席状況、分担課題についてのプレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	コースガイダンス	コース概要、学習の進め方、受講にあたっての自己課題	伊藤まゆみ
2	老年看護学特論の概要	老年看護学の概念、老年看護学の歴史的変遷	伊藤まゆみ
3	老年期の発達理論	老化理論とエイジング、老年期の発達理論の新しい考え方	伊藤まゆみ
4	高齢者の健康問題	からだ・こころ・社会的側面からみた高齢者特有の健康問題	伊藤まゆみ
5	老年看護学研究の動向	学会抄録からみた老年看護学研究の変遷	伊藤まゆみ
6	健康増進活動とメンタルヘルス	高齢者における健康増進活動の可能性とその効果、高齢者とうつ病	伊藤まゆみ
7	高齢者の健康障害と看護Ⅰ	慢性の健康障害	伊藤まゆみ
8	高齢者の健康障害と看護Ⅱ	急性の健康障害	伊藤まゆみ
9	高齢者の健康障害と看護Ⅲ	認知症	伊藤まゆみ
10	高齢者のエンドオブライフ・ケア	人生の最終末期における看護	伊藤まゆみ
11	高齢者をとりまく社会制度	保健・医療・福祉制度、政策	伊藤まゆみ
12	高齢者ケアの倫理的課題	高齢者と人権、成年後見制度、高齢者虐待、身体拘束	伊藤まゆみ
13	高齢者と家族	高齢者ケアにおける家族のとらえ方、家族支援	伊藤まゆみ
14	老年看護学教育Ⅰ	老年看護学教育の授業設計、教育方法・教材	伊藤まゆみ
15	老年看護学教育Ⅱ	教育の展開と評価、技術教育	伊藤まゆみ

教科書	看護研究計画書－作成の基本ステップ、小玉香津子訳、日本看護協会出版会
参考書	適宜紹介する

科目名	老年看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	伊藤まゆみ	単位	2	必修・選択	選択

目的	老年看護学に関する課題とその動向を概説し、自己の研究課題を探求する。また、課題探求のための具体的な計画書が作成できる。
学習到達目標	1) 文献レビュー、実践活動の分析から自己の研究課題を見いだすことができる。 2) 課題探求のための研究デザイン、方法について追求できる。 3) 研究計画書が作成できる。
成績評価方法	出席状況、文献レビュー・実践活動からの課題についてのプレゼンテーションとレポート、研究計画書の作成過程を総合的に評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	コースガイダンス	授業の進め方、研究計画立案から論文作成まで	伊藤 まゆみ
2	研究の進め方Ⅰ	研究課題の探索、文献検索と抄読の方法	伊藤 まゆみ
3	研究の進め方Ⅱ	研究方法について①	伊藤 まゆみ
4	文献レビューⅠ	研究課題に関連した文献レビュー	伊藤 まゆみ
5	研究の進め方Ⅲ	研究方法について②	伊藤 まゆみ
6	文献レビューⅡ	研究課題に関連した文献レビュー	伊藤 まゆみ
7	研究の進め方Ⅳ	研究における倫理の問題	伊藤 まゆみ
8	文献レビューⅢ	研究課題に関連した文献レビュー	伊藤 まゆみ
9	文献レビューⅣ	文献レビューのまとめ	伊藤 まゆみ
10	研究計画Ⅰ	研究計画書の作成方法	伊藤 まゆみ
11	研究計画Ⅱ	研究課題の焦点化、研究目的	伊藤 まゆみ
12	研究計画Ⅲ	研究デザイン・方法	伊藤 まゆみ
13	研究計画Ⅳ	研究実施計画	伊藤 まゆみ
14	研究計画Ⅴ	倫理面の検討	伊藤 まゆみ
15	研究計画Ⅵ	研究計画の発表と討議	伊藤 まゆみ

教科書	看護研究計画書ー作成の基本ステップ、小玉香津子訳、日本看護協会出版会
参考書	適宜紹介する

科目名	精神看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	齋藤和子	単位	2	必修・選択	選択

目的	ひとのからだところの理解を深め、精神看護の実践の基礎となる対象理解のための理論、実践の場で行う援助技術について学ぶ。また高齢者のところの健康を支援するための行政、地域社会の役割と課題について理解を深める。さらに精神看護学の教育方法と研究指導方法についての理解を深める。
学習到達目標	1) ひとのところの健康と発達理論、精神看護の基礎理論について理解する。 2) 精神看護の実践に必要な援助技術、医療制度・政策の現状と課題について理解する。 3) 精神看護学の教育方法、研究指導方法に関する理解を深め、自己の課題を見いだす。
成績評価方法	講義への出席状況、分担課題についてのプレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	精神看護学特論の概要	精神看護学の概念及び精神看護学と研究をとりまく最近の動向	齋藤 和子
2	からだところの健康	精神看護学における健康の概念	齋藤 和子
3	ところの発達理論	さまざまな発達理論の概要とその変遷	齋藤 和子
4	精神看護の基礎理論Ⅰ	セルフケアモデル	齋藤 和子
5	精神看護の基礎理論Ⅱ	地域ケアモデル	齋藤 和子
6	精神看護の基礎理論Ⅲ	危機理論	齋藤 和子
7	精神看護の基礎理論Ⅳ	生物学モデル（精神科薬物療法）	齋藤 和子
8	リエゾン精神看護	リエゾン精神医学の基礎と看護への適用	齋藤 和子
9	精神看護の援助技術Ⅰ	コンサルテーション技術	齋藤 和子
10	精神看護の援助技術Ⅱ	相談・面接技術	齋藤 和子
11	精神保健福祉政策	現状と課題	齋藤 和子
12	認知症高齢者への地域ケアサービス	認知症高齢者に対する地域ケアサービスの効果と運営	齋藤 和子
13	救急医療	精神科救急の現状と課題	齋藤 和子
14	研究の動向と課題	精神看護学研究の動向と課題	齋藤 和子
15	精神看護学教育	教育の理論と方法、展開、評価	齋藤 和子

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配付する）
参考書	適宜紹介する

科目名	精神看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	齋藤和子	単位	2	必修・選択	選択

目的	精神看護学の実践における基本的技術としてのカウンセリング技術、ケーススタディの方法論についての理解を深める。また、精神看護学に関する課題とその動向を概観し、精神看護実践における研究課題を探求する。さらに、実践の質向上のために必要な研究テーマ及び研究方法について探求する。
学習到達目標	1) 精神看護実践のためのカウンセリング技術を習得する。 2) フィールドワーク、ケーススタディ、文献レビューを実践、報告できる。 3) 自己の研究課題を見だし、課題探求のための計画を具体化できる。
成績評価方法	出席状況、カウンセリング技術演習の成果、フィールドワーク・ケーススタディ・文献レビューの課題についてのプレゼンテーションとレポート、研究計画書の作成過程を総合的に評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	ガイダンス	精神看護学演習の概要	齋藤 和子
2	相談・面接技術演習Ⅰ	相談・面接技術の理論	齋藤 和子
3	相談・面接技術演習Ⅱ	実施と評価	齋藤 和子
4	相談・面接技術演習Ⅲ	フィールドワーク	齋藤 和子
5	相談・面接技術演習Ⅳ	フィールドワークの成果発表と討議	齋藤 和子
6	ケーススタディⅠ	ケースの提示と分析	齋藤 和子
7	ケーススタディⅡ	実践への適用	齋藤 和子
8	相談・面接技術の導入Ⅰ	看護基礎教育課程	齋藤 和子
9	相談・面接技術の導入Ⅱ	卒後継続教育	齋藤 和子
10	研究方法	精神看護学における研究方法の特徴	齋藤 和子
11	文献レビューⅠ	国内文献レビューと討議	齋藤 和子
12	文献レビューⅡ	海外文献レビューと討議	齋藤 和子
13	精神看護学の研究指導方法Ⅰ	研究計画書の作成	齋藤 和子
14	精神看護学の研究指導方法Ⅰ	倫理的配慮と倫理診査	齋藤 和子
15	まとめ		齋藤 和子

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配付する）
参考書	適宜紹介する

科目名	高齢者理学療法学特論	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	浅田春美 加藤仁志	単位	2	必修・選択	選択

目的	身体とその運動機能の加齢変化，それらによる生活の変容などについて教授する。その中でも特に，高齢者の転倒に係わるバランス機能，日常生活活動の自立度，活動量の変化とそれらの評価方法について教授する。また，高齢者の生活自立度，生活の質の維持向上ために必要な運動機能やこれらの機能維持のためにおこなわれる理学療法介入方法とその評価方法，研究方法などについて教授する。
学習到達目標	1) 身体とその運動機能の加齢変化とそれによる生活の変容がわかる。 2) 高齢者の生活自立・生活の質の維持向上に必要な理学療法介入についてわかる。また，それらの評価方法・研究方法がわかる。
成績評価方法	授業への参加状況・報告による。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	ガイダンス	ガイダンス	浅田 春美
2	日本における高齢者の実態（総論）	理学療法の対象となる高齢者の区分	浅田 春美・加藤 仁志
3	〃	老年症候群	浅田 春美・加藤 仁志
4	高齢者の評価	高齢者に関する評価	浅田 春美・加藤 仁志
5	〃	<運動機能・ADL・QOL・その他>	浅田 春美・加藤 仁志
6	各制度における理学療法の役割1	介護保険制度の中での理学療法の役割・課題	浅田 春美・加藤 仁志
7	〃	<通所・入所>	浅田 春美・加藤 仁志
8	各制度における理学療法の役割2	高齢者施策：介護予防事業での理学療法	浅田 春美・加藤 仁志
9	〃	<運動器，口腔・栄養，認知>	浅田 春美・加藤 仁志
10	〃	高齢者のバランス機能と動作	浅田 春美・加藤 仁志
11	〃	高齢者の運動機能評価	浅田 春美・加藤 仁志
12	課題報告・討論	各自治体における高齢者施策における理学療法士の役割 討論	浅田 春美・加藤 仁志
13	〃	〃	浅田 春美・加藤 仁志
14	高齢者に関する文献抄読（報告）	高齢者に関する文献<理学療法評価・介入>	浅田 春美・加藤 仁志
15	〃	〃	浅田 春美・加藤 仁志

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	地域看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	大野絢子 矢島正栄 小林亜由美	単位	2	必修・選択	選択

目的	地域社会の健康レベル向上に関わる看護の理論と技術、対象別の地域看護実践方法、保健医療福祉の連携とシステム化について教授する。また、地域の健康問題の解決に必要な社会資源の開発と施策への反映、ヘルスプロモーションの推進における地域看護の役割について教授する。さらに、地域看護学教育の歴史と展望、地域看護学の基礎教育及び現任教育の役割と課題、地域看護管理について教授する。
学習到達目標	1) 地域社会の健康レベル向上に関わる看護の理論、ヘルスプロモーションの推進における地域看護の役割について理解できる。 2) 対象別の地域看護実践方法、保健医療福祉の連携とシステム化の意義と方法、地域の健康問題の解決に必要な社会資源の開発と施策への反映の方法がわかる。 3) 地域看護学教育の歴史をふまえた基礎教育及び現任教育の役割と課題がわかる。
成績評価方法	レポート

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	地域看護学教育Ⅰ	地域看護学教育の基本的な考え方	大野 絢子
2	地域看護学教育Ⅱ	地域看護学の基礎教育及び現任教育の役割と課題	大野 絢子
3	地域における保健師の活動	個人、家族、集団を対象とした地域看護の理論と技術	大野 絢子
4	地域における保健師の活動	地域保健法と保健師の活動	大野 絢子
5	対象別地域看護実践方法Ⅰ	母子保健活動の展開方法、母子保健の現状と今後の課題	矢島 正栄
6	対象別地域看護実践方法Ⅰ	母子保健活動の展開方法、母子保健の現状と今後の課題	矢島 正栄
7	対象別地域看護実践方法Ⅱ	成人・高齢者保健活動の展開方法、成人・高齢者保健の現状と今後の課題	小林亜由美
8	対象別地域看護実践方法Ⅱ	成人・高齢者保健活動の展開方法、成人・高齢者保健の現状と今後の課題	小林亜由美
9	対象別地域看護実践方法Ⅲ	精神保健活動の展開方法、精神保健の現状と今後の課題	矢島 正栄
10	職域別地域看護実践方法Ⅰ	産業保健活動の展開方法、産業保健の現状と今後の課題	大野 絢子
11	職域別地域看護実践方法Ⅱ	学校保健活動の展開方法、学校保健の現状と今後の課題	大野 絢子
12	地域看護学教育Ⅲ	保助看法、人材確保法と保健師の現任教育	大野 絢子
13	地域看護学教育Ⅳ	保助看法、人材確保法と保健師の現任教育	大野 絢子
14	地域看護の歴史	地域看護学の歴史と展望	大野 絢子
15	地域看護管理	地域看護管理	大野 絢子

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する



科目名	地域看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	大野絢子・矢島正栄・小林亜由美	単位	2	必修・選択	選択

目的	地域看護学に関する研究の動向を理解し、事故の研究課題を探索する。また、研究課題探求のための具体的な方法を理解する。
学習到達目標	1) 地域看護学研究に用いられる手法とその特質がわかる。 2) 地域看護学領域における研究の動向がわかる。 3) 自らの研究課題探求のために適切な研究デザインを選択し、研究計画を立案することができる。
成績評価方法	レポート

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	オリエンテーション	オリエンテーション	大野絢子・矢島 正栄 ・小林亜由美
2	研究の進め方Ⅰ	研究計画立案から論文作成まで	大野絢子・矢島 正栄 ・小林亜由美
3	研究の進め方Ⅱ	研究デザイン・研究方法の理解	大野絢子・矢島 正栄 ・小林亜由美
4	研究の進め方Ⅱ	研究デザイン・研究方法の理解	大野絢子・矢島 正栄 ・小林亜由美
5	文献抄読	地域看護学の研究課題に関連した文献の抄読	大野絢子・矢島 正栄 ・小林亜由美
6	文献抄読	地域看護学の研究課題に関連した文献の抄読	大野絢子・矢島 正栄 ・小林亜由美
7	文献抄読	地域看護学の研究課題に関連した文献の抄読	大野絢子・矢島 正栄 ・小林亜由美
8	文献抄読	地域看護学の研究課題に関連した文献の抄読	大野絢子・矢島 正栄 ・小林亜由美
9	研究計画の検討Ⅰ	研究課題・目的・研究デザイン	大野絢子・矢島 正栄 ・小林亜由美
10	研究計画の検討Ⅰ	研究課題・目的・研究デザイン	大野絢子・矢島 正栄 ・小林亜由美
11	研究計画の検討Ⅱ	研究方法	大野絢子・矢島 正栄 ・小林亜由美
12	研究計画の検討Ⅱ	研究方法	大野絢子・矢島 正栄 ・小林亜由美
13	研究計画の検討Ⅲ	研究実施計画	大野絢子・矢島 正栄 ・小林亜由美
14	研究計画の検討Ⅲ	研究実施計画	大野絢子・矢島 正栄 ・小林亜由美
15	研究計画の検討Ⅳ	研究計画の発表	大野絢子・矢島 正栄 ・小林亜由美

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	在宅看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	大野 絢子 小林 和成	単位	2	必修・選択	選択

目的	在宅ケアシステム構築に関する理論と方法について教授する。また、在宅看護に必要なアセスメント、ケアマネジメント、及びケアの評価の方法、在宅看護技術、在宅ケアにおける家族指導技術、在宅ケアチームの形成について教授する。また、在宅看護における看護管理の方法について教授する。さらに、在宅看護の基礎教育及び現任教育の現状と課題について教授する。
学習到達目標	1) 在宅看護技術の特質、家族に対する指導技術、在宅ケアマネジメントの意義と方法、在宅ケアシステム構築に関する理論と方法がわかる。 2) 在宅看護における看護管理の方法がわかる。 3) 在宅看護の基礎教育及び現任教育の現状と課題がわかる。
成績評価方法	レポート

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	在宅看護学教育Ⅰ	在宅看護学教育の基本的な考え方	大野 絢子
2	在宅看護学教育Ⅱ	在宅看護学の基礎教育及び現任教育の役割と課題	大野 絢子
3	地域における保健師の活動	個人、家族、集団を対象とした地域看護の理論と技術	大野 絢子
4	地域における保健師の活動	地域保健法と保健師の活動	大野 絢子
5	成人・高齢者保健活動	成人・高齢者保健活動の展開方法、成人・高齢者保健の現状と今後の課題	小林亜由美
6	成人・高齢者保健活動	成人・高齢者保健活動の展開方法、成人・高齢者保健の現状と今後の課題	小林亜由美
7	在宅看護の基礎Ⅰ	在宅看護の考え方	大野 絢子
8	在宅看護の基礎Ⅰ	在宅看護の考え方	大野 絢子
9	在宅看護の基礎Ⅱ	在宅看護技術	大野 絢子
10	在宅看護の基礎Ⅱ	在宅看護技術	大野 絢子
11	介護保険と在宅看護	介護保険と在宅看護	小林 和成
12	在宅看護学教育Ⅲ	保助看法、人材確保法と保健師・看護師の現任教育	大野 絢子
13	在宅看護学教育Ⅳ	保助看法、人材確保法と保健師・看護師の現任教育	大野 絢子
14	在宅看護の歴史	在宅看護の歴史	大野 絢子
15	在宅看護管理	在宅看護管理	大野 絢子

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	在宅看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	大野 絢子、小林和成	単位	2	必修・選択	選択

目的	在宅看護学に関する研究の動向を理解し、事故の研究課題を探求する。また、研究課題探求のための具体的な方法を理解する。
学習到達目標	4) 在宅看護学研究に用いられる手法とその特質がわかる。 5) 在宅看護学領域における研究の動向がわかる。 6) 自らの研究課題探求のために適切な研究デザインを選択し、研究計画を立案することができる。
成績評価方法	レポート

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	オリエンテーション	オリエンテーション	大野 絢子
2	研究の進め方Ⅰ	研究計画立案から論文作成まで	大野 絢子
3	研究の進め方Ⅱ	研究デザイン・研究方法の理解	大野 絢子
4	研究の進め方Ⅱ	研究デザイン・研究方法の理解	大野 絢子
5	文献抄読	在宅看護学の研究課題に関連した文献の抄読	大野 絢子、小林和成
6	文献抄読	在宅看護学の研究課題に関連した文献の抄読	大野 絢子、小林和成
7	文献抄読	在宅看護学の研究課題に関連した文献の抄読	大野 絢子、小林和成
8	文献抄読	在宅看護学の研究課題に関連した文献の抄読	大野 絢子、小林和成
9	研究計画の検討Ⅰ	研究課題・目的・研究デザイン	大野 絢子、小林和成
10	研究計画の検討Ⅰ	研究課題・目的・研究デザイン	大野 絢子、小林和成
11	研究計画の検討Ⅱ	研究方法	大野 絢子、小林和成
12	研究計画の検討Ⅱ	研究方法	大野 絢子、小林和成
13	研究計画の検討Ⅲ	研究実施計画	大野 絢子、小林和成
14	研究計画の検討Ⅲ	研究実施計画	大野 絢子、小林和成
15	研究計画の検討Ⅳ	研究計画の発表	大野 絢子

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	地域理学療法学特論	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	目黒力 蛭間基夫	単位	2	必修・選択	選択

目的	高齢者や身体障害者が地域での生活を維持・改善するために必要な住環境整備，交通整備，街づくりなどを中心に教授する。また，地域保健を实践するための関連職種とその役割，そのチームにおける理学療法士の役割，地域保健を实践するために必要な社会制度などについて教授する。また，これらを実現することの礎となる事柄，すなわち，高齢者や身体障害者の身体特性，特に視力や認知機能，高齢者および障害者の日常生活活動・住環境・外出時の移動・交通利用の実態と，それらを改善するためのデザイン手法（ユニバーサル・デザイン）や研究方法について教授する。
学習到達目標	1) 高齢者・身体障害者の生活に必要な住環境・交通・街についてわかる。 2) 地域保健における理学療法士の役割がわかり，実践のための自己の課題が明確になる。
成績評価方法	授業への参加状況・報告による

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	環境Ⅰ	高齢者・身体障害者と生活	目黒力・蛭間基夫
2	環境Ⅱ	高齢者・身体障害者と住環境（1）	目黒力・蛭間基夫
3	環境Ⅲ	高齢者・身体障害者と住環境（2）	目黒力・蛭間基夫
4	環境Ⅳ	高齢者・身体障害者と街づくり（1）	目黒力・蛭間基夫
5	環境Ⅴ	高齢者・身体障害者と街づくり（2）	目黒力・蛭間基夫
6	社会制度	地域保健活動と社会制度	目黒力・蛭間基夫
7	人的環境Ⅰ	地域保健活動における関連職種の役割	目黒力・蛭間基夫
8	人的環境Ⅱ	地域保健活動における理学療法士の役割	目黒力・蛭間基夫
9	身体・認知能力Ⅰ	高齢者・身体障害者の身体機能と認知能力（1）	目黒力
10	身体・認知能力Ⅱ	高齢者・身体障害者の身体機能と認知能力（2）	目黒力
11	生活	高齢者・身体障害者の日常生活活動	目黒力
12	交通Ⅰ	高齢者・身体障害者と交通（1）	目黒力
13	交通Ⅱ	高齢者・身体障害者と交通（2）	目黒力
14	デザインⅠ	ユニバーサルデザイン（1）	目黒力
15	デザインⅡ	ユニバーサルデザイン（2）	目黒力

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する